

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 5 年度第 1 回高松市中央卸売市場開設運営協議会
開催日時	令和 6 年 2 月 2 2 日(木) 午後 1 時 3 0 分～午後 3 時
開催場所	高松市中央卸売市場 管理棟 5 階 大ホール
議 題	(1) 会長、副委員長の選出について (2) 令和 5 年取引高及び令和 5 年度事業の報告について (3) 市場の再整備について (4) 市場の活性化について (5) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	会長、副会長、委員 7 名 (欠席 1 名)
傍 聴 者	1 名 (定員 6 名)
担当課及び連絡先	市場業務課業務指導係 8 6 2 - 3 4 1 1

### 会議の経過及び結果

- 議題 1 会長、副委員長の選出について  
委員から推薦され、承諾した。
- 議題 2 令和 5 年取引高及び令和 5 年度事業の報告について  
事務局から議題 2 について報告した。
- 議題 3 市場の再整備について  
事務局から議題 3 について報告した。
- 議題 4 市場の活性化について  
事務局から議題 4 について報告した。
- 議題 5 その他  
令和 6 年臨時休開場日について  
事務局から議題 5 について報告した。

## 主な審議内容

### 議題2 令和5年取引高及び令和5年度事業の報告について

(副会長) 青果部の取扱高が減少しているのは、インターネットでの直接販売や産直での販売が増加しているからである。野菜や果物は、外食にしても内食にしても必要な食材であり、新型コロナの影響を受けることはなかったため、経営状態も安定していた。

(委員) 水産物部の取扱高については、令和4年まで新型コロナの影響が大きく、数量・売上ともに減少していたが、令和5年5月、5類に移行され、飲食業が復活したことで、徐々に卸業も回復してきた。また、輸入水産物も新型コロナ前くらいに回復し売上も上がってきたが、地方の水産物水揚量は減少し、その分価格が高騰しているのは懸念事項である。

(会長) 出荷側の香川県農協と香川県漁連から御意見はあるか。

(委員) 青果の生産量は右肩下がりである。しかし、果物については、高単価商材やギフト商材等の高付加価値をつけて販売戦略を立てているため、末端価格は右肩上がりとなっている。

価格が乱高下する場合はあるが、安定した供給を継続していきたい。

(委員) 水産物取扱高は、新型コロナ前の水準に戻したいが戻らないのが現状である。危惧しているのが、瀬戸内海のイイダコ、ワタリガニ、ゲタの量が減少し、タイが増加していること。海がきれいになりすぎのため、養殖にはいいが、のりや天然の魚にとっては住みにくくなってきている。県外においても、北海道で赤潮が発生したり、獲れる魚種が変わってきたりと、海が変わってきている。今後も稚魚の放流等を実施しながら、県と協力していきたい。

(会長) 海の変化については環境問題にも関わる問題であると思う。

青果・水産の状況把握ができた。

(委員) 新青果棟の規模は何を基準に設計されているか。

(事務局) 新青果棟については将来の取扱量等の推移を予測して、規模を算出しており、建物自体の面積は約半分となっている。水産棟については今後考えていく。

(副会長)新青果棟は平屋で現状2階建てなので、面積でいうと約半分になっている。

昭和42年頃は高松市や香川県の人口がどれくらいかで中央卸売市場の規模が決まっていた。市場は商物一致が原則であったが、時代にそぐわないということで、令和2年6月の法改正後、現在は商物分離が進んでいる。スーパーも物流センターを構えており、伝票は弊社を通るが物は直接物流センターへ運ばれるようになっている。産地から見て魅力ある市場にしていくためにも、四国内の市場間で連携し、選ばれる市場になっていきたい。

(委員) 取扱金額が微増になった理由が知りたい。

(副会長)取扱量は年々減少しているが、物価上昇の影響を受け、取扱金額は増加している。建物面積は縮小したが、市場を経由しない取扱高を今後も増やしていくために、ソフトとハードの中身の改革をやってきたい。

(委員) 参入業者は家賃を支払う立場であるため、家賃等の固定費が上がると儲からない。市場は公共性を持つものであり、利益率も少ない。高くて立派なものを作りすぎると固定費が高くなり経営していけないので、必要なもの、不必要なものを選別して水産物棟の整備を計画していただきたい。

### 議題3・4 市場の再整備・活性化について

(会長) 資料に水産物棟整備後のイメージ図があるが、水産物棟再整備後は、水産物部がにぎわう施設になるのか。青果部は入らないのか。

(事務局)水産物が基盤となるが、唐戸市場のように青果部と水産物部がコラボしていけるよう検討していく。

(委員) 新青果棟に荷物を搬入するのは、令和7年3月を予定すればいいのか。令和6年12月の落成式後の令和7年1月頃から準備に取り掛かる流れか。試験運用や平行利用はあるのか。

(事務局)令和7年3月頃に臨時休場日を作るので、その時には現位置と新青果棟を自由に入れるようにする。試験運用するのは構わないが、売買できるのは令和7年3月の供用開始の手続きが終わってからとなる。

(委員) 豊洲移転の際に運送や配送でバタバタしていたと聞いているので、関連業者とも調整しながら進めていきたい。

(副会長) 来月には卸売業者と仲卸売業者が新青果棟の視察に行くので、その後荷主には状況を伝える。姫路市場移転の際は、3月の金、土曜日を臨時休場日にして木曜日の夕方、金、土曜日で引っ越しし、日曜日

から荷物を搬入して月曜日から通常営業したと聞いている。移転だけではなく、市場フェスタ、市場開放、市場運営を今後どうしていくのか。また、瀬戸内町中心の活性化と市場運営の線引きが甘く、混同して語られているが両方が成り立つように、市場運営について真剣に考えてほしい。

(委員) 昔は物を動かすだけの市場であったが、今は物を直接販売し消費を促す市場としての役割が大きくなっている。栄養学の立場から言えば、魚ならDHA、野菜なら色素に栄養が多いこと等の機能性をPRすることで、消費をアップできると考えている。

岡山市、倉敷市の野菜の摂取量は平均値より不足しており、摂取量増加のために何ができるか考えている。例えば、歩けばポイントが貯まるアプリがあるように野菜や魚を買えばポイントが貯まるなどのシステムを構築することで消費がアップし、健康増進のアップにも繋がるのではと思っている。

(副会長) ポイントが貯まるというアイデアとは違う意見だが、新青果棟の中ではキッチンルームを設けて一般の方にも使ってもらおうよう計画している。弊社も社内に調理室を設けてバイヤーに試食してもらい商品価値を理解してもらおうようにする予定である。

また、香川の野菜については、県の協力を得て、冊子やSNSでレシピを掲載しており、生産者の情報も発信して消費拡大に繋げている。そのほか、市場開放ではJA香川県の御協力をいただいて野菜や果物のくじを開催し、御客様に喜んでもらっている。

是非、スーパーのポイント貯まるアイデアについて、バイヤーに掛け合ってみたい。

(委員) 新青果棟は業者だけでなく一般も入れるのか。ごじまん品で料理教室

をしているので、市場内でも機会や場所を作れば野菜に興味を持ってもらえると思う。市場フェスタも魚しかイメージないので、野菜や花のPRにも力を入れてほしい。ごじまん品などの野菜を使った料理教室を気軽に行える市場があればいいと思う。

(事務局) 基本的には一般の方は入れない。市場と合同で開催するイベント等は可能である。うみまち商店街の中にも貸しキッチンを確認しているので、是非利用してほしい。

(副会長) 先進市場では、売り場の真ん中にキッチンがあってバイヤーが試食できる場所があったり、フレンチの職人やパティシエをイベントで呼んだりしている。新青果棟においても、もっと市民に市場を使用してもらい、料理の楽しさや新鮮なものの美味しさを味わってもらえる準備をしている。

(委員) キッチンを作るのであれば、最大限利用できるようにすべきである。インバウンドを呼び込むためには、郷土料理や器の紹介など食文化の発信が必要である。旅慣れた欧米の方は地域のおばあちゃんの手料理などを好む。ニーズに合った発信をすることでインバウンドに繋がるのではないか。

(委員) 若い人はSNSで情報収集することが多いが、SNSなどで発信しているのか。

(事務局) 市のHP、インスタ、You tubeチャンネルで情報発信している。

(会長) 広く発信していくことが、今後の市場の打開策となる。若い方の意見を聞きながら進めていければと思う。

閉会 午後3時